

国立大学法人 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所

令和4年度
お茶の水女子大学論
ロールモデル講演集



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

リーダーシップ養成の実践のために

「お茶の水女子大学論」は、キャリアデザインプログラムの基幹科目の1つで、主に1年生を対象としています。本年度は対面形式で開催し、1-4年生合わせて140人以上の学生が受講しました。

この授業は、お茶の水女子大学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら学生が在学期間を有意義に過ごすための導入的講座で、5つの要素^(※1)から成り立っています。本講座では、学部生がお茶の水女子大学の歴史と現在を学ぶことを通して、本学の教育カリキュラムを自律的に選択し、授業を有効に活用し、社会の様々な場面でリーダーシップを発揮する人間として成長することを目指しています。

本冊子は、その一環として行われた、卒業生によるロールモデル講演の内容をまとめたものです。4回のうち掲載許可をいただいた講演録を掲載しています。本冊子に掲載させていただいた中嶋裕子氏のご講演(6/29)では、学生時代の過ごし方を含めたご自身のキャリアパスや、現在のご研究内容などをご紹介いただき、ご自身のワーク・ライフ・バランスについてもお話しいただきました。中嶋氏をはじめ、ご登壇いただいた皆様にはこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

グローバルリーダーシップ研究所

(※1)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 学長による講演 | 3. 本学卒業生のロールモデルから学ぶ |
| 2. 本学の歴史、本学の学生の特徴、学内の各種プログラムを知る | 4. 企業、起業等について学ぶ |
| | 5. 特別講演 |

目次

リーダーシップ養成の実践のために2

「大学院卒業から10年の歩み

～アカデミアにおける研究活動と3人の子育て」3

中嶋裕子

名古屋大学 大学院理学研究科 生物有機化学研究室 研究員

理学部化学科 卒、大学院 理学専攻博士後期課程 修了(博士(理学)取得)

※講演者の所属と職位は講演当時のものです。

「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演 (2022. 6. 29)

「大学院卒業から 10 年の歩み

～アカデミアにおける研究活動と 3 人の子育て～

中嶋裕子 (名古屋大学 研究員)

1. 大学在学中の生活

私は、2003 年に理学部化学科に入学しました。大学の授業は高校までとは桁違いに難しく、これまでに学習した内容は、学問のほんの入り口に過ぎなかったということに気づかされました。期末試験の勉強や実習のレポート作成のために大学の付属図書館をよく利用していました。学部 3 年生の時、生活科学部の必修実習である“浴衣制作”を他学部ながらも思い切って受講しました。全て手縫いの和裁は難しく、根気のいる作業でしたが、先生方が丁寧に教えてくださり、完成させることができました。課外活動では、硬式テニス部に所属しました。少人数だったため学年を超えたつながりもできました。個別指導の塾講師や洋菓子店でのアルバイトも経験しました。

4 年生になると、卒業研究のために研究室に配属されます。私は、理化学研究所で研修生として学ぶ機会を得ました。理研の環境はとても素晴らしく、研究(実験)が面白くて、研究室に所属して程なくして、博士課程に進学したいなあと漠然と考え始めていました。ただ、自分が研究者として仕事を続ける自信は全くありませんでした。いろいろ迷いましたが、基礎研究をもう少し続けたい、博士の学位を取得したいと思い、進学することに決めました。理研にはジュニアリサーチアソシエイトという独自の奨学金制度があり、経済的な不安も解決されました。その後、博士 1 年生の時に結婚し、3 年生の秋に第一子を出産しました。産後 2 ヶ月で博士論文の審査会に臨み、なんとか学位を取得することができました。無謀なスケジュールとなっ

ったのですが、先生方が私の意志を尊重して、ご指導してくださったおかげで、休学や留年をすることなく卒業できて本当に感謝しています。

2. 現在の仕事の内容、現在の仕事に就いた経緯

現在は、名古屋大学理学研究科で研究員として働いています。mRNA 医薬の研究をしています。研究計画を立てて実験をし、成果を学会や論文で発表することが私の主な仕事内容です。大学院を卒業してから、理化学研究所、浜松医科大学～現在とずっとアカデミアにおいて研究活動に携わってきました。学生時代に核酸化学を学び、RNA の多彩な機能に魅了されました。

“RNA を医療へ応用したい”というモチベーションのもと、研究員の仕事を続けています。ただ、学位取得後は、妊娠・出産・育児のライフイベントが続きました。家庭生活を優先させようと、夫の転勤先の近くで職を探したため、異分野の研究を一から学ぶこともありました。そのような状況の中でも研究対象は一貫して核酸から離れないようにしようと思い、日本学術振興会特別研究員 RPD の申請の際には、RNA を検出対象としたイメージング研究を提案して採択されました。異分野を学ぶ中で、再び RNA の研究をやりたいと思う気持ちが強くなり、理化学研究所時代の恩師である阿部先生に再び受け入れていただき、現在の仕事に就きました。

3. 仕事をするなかで感じること

ワーク・ライフ・バランスは、本当に人それぞれだと感じます。私は、3人の子どものお母さんでもあります。世の中の子育て中の女性の中では、ワークに傾いている方だと思います（フルタイム勤務で家でも仕事をしたりするからです）。しかし、研究者の中では、ものすごくライフに傾いている方だと痛感します。研究者は、朝早くから夜遅くまで仕事をするのがごく普通の世界です。周りとのスピード感の違いに悔しい思いをすることもしばしばあります。仕事は、もっと仕事をしたい！と思いながらも切り上げて、急いで帰宅して子どもとの時間を過ごせば、もっと子どもと一緒にいたい！という気持ちになります。どちらも中途半端でダメだなあと自己嫌悪に陥ることもありますが、仕事も子

育てもどちらも自分にとって大切なものなので、効率よく時間を使うことを徹底して、周囲の協力も得て、続けていこうと努力しています。

4. 在学生に伝えたいこと

人生は一度きりなので、無難な道を選ぶよりも自分のやりたいことをやってみるとよいと思います。一方で、がんばりすぎて心身の健康を損なっては元も子もないので、高い目標を持ちつつも、辛いときには、目の前の小さな目標を一つずつクリアしていくというように発想の転換をしてみるとうまくいくことがあります。仕事とライフイベントの両立は確かに大変なことではありますが、探せばいろいろと解決の道はあると思います。

令和4年度 お茶の水女子大学論 ロールモデル講演集

発行日 令和5年9月30日

発行 国立大学法人 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 人間文化創成科学研究科棟 506 室
E-MAIL : info-leader@cc.ocha.ac.jp
TEL : 03-5978-5520
<https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>

編集責任 グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 チンテザ・アンドレア

